

営農技術情報

～トマト薬害～

平成29年 6月13日発行

日高農業改良普及センター日高西部支所

TEL01457-2-2055

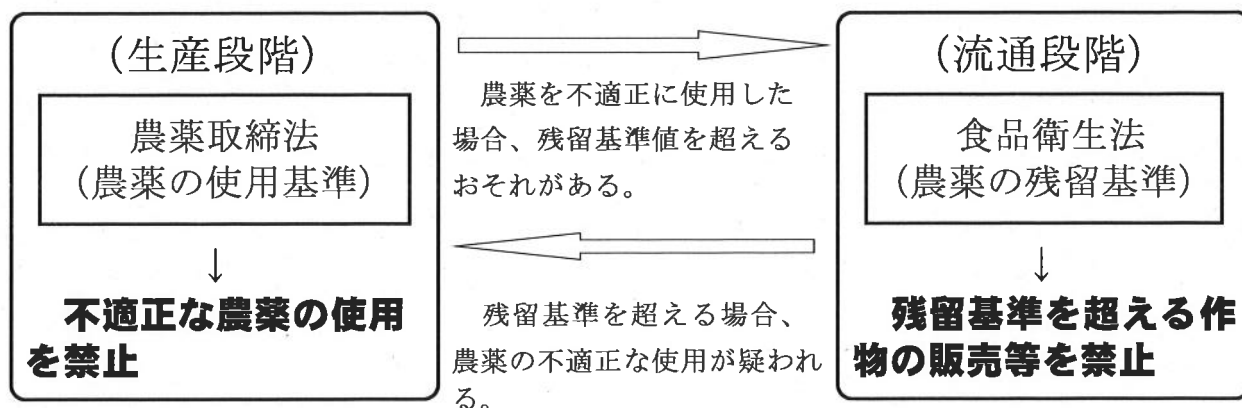
トマトハウスにおいて、ザクサ液剤、バスタ液剤、ラウンドアップマックスロードによる薬害症状が見受けられます。

除草剤散布後、時間を経過してからトマトの茎葉に黄化～白化症状が現れてきます。

収穫中のトマト栽培ハウスで除草剤を使用して、トマト表面に薬剤が付着したり、茎葉・根部から内部へ移行して残留農薬基準値を超えることが懸念されます。

育苗ハウスや定植前後のハウスにおいて、ハウス内での除草剤使用は控えるようにしましょう。

1 農薬取締法と食品衛生法の関係



2 除草剤について

ザクサ液剤、バスタ液剤、ラウンドアップマックスロード

< 特徴 >

- ①茎葉からの浸透移行性があるため、茎葉にかかった成分は吸収され根部まで届き枯れていく。
- ②地表面では、太陽光などにより分解され、土壌中では微生物の作用などにより分解されて消失していく。
- ③ザクサ液剤とバスタ液剤は茎葉処理型除草剤である。
- ④ラウンドアップマックスロードは吸収移行型除草剤である。
(使用にあたっては十分注意する)
- ⑤半減期：土壌における最高濃度が半分にまで消失する期間
例) ラウンドアップマックスロードの場合(日本植物防疫協会)
畑地ほ場：16～17日
畑地室内：8～16日